

蚊取線香のひび割れ解析の計画

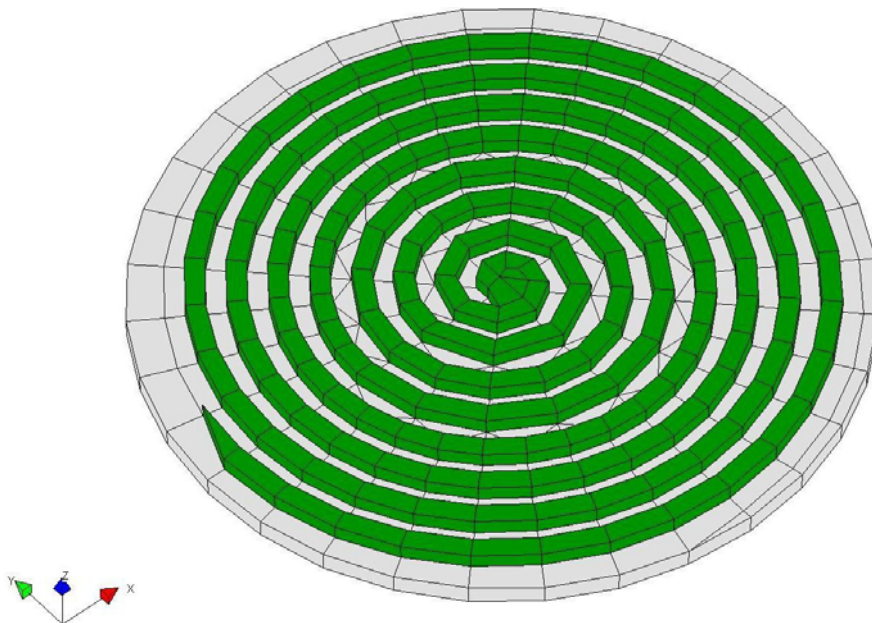
長年続けられてきた鋼とコンクリートの付着に関する研究に対しては、「何の役に立つのか分からない」という批判がある。

- ・ 建築学会の終局指針は付着を考慮して柱・梁のせん断強度を評価しているが、計算を面倒にしているだけとの批判も。
- ・ 東大の前川先生「ひび割れ面の骨材のかみ合わせを研究してきたが、ひび割れ間隔の影響はほとんどない。付着を考慮してまでひび割れ間隔を求める必要があるのか疑問」(過去の JCI 委員会席上にて)
- ・ 名古屋工大の市之瀬先生「IT 分野が魔法のような技術を生んでいるのに、せん断・付着をやってきた我々は 50 年前から進歩していない」(コンクリート工学誌上にて)

どうせ役に立たないならば、徹底的に役に立たない研究をしてやる！

そこで、付着挙動算定方法を応用して、蚊取線香が燃えた後の灰のひび割れシミュレーションを試みる(燃烧による体積収縮によるひずみが、台座に拘束されることに起因)。

蚊取線香の灰のひび割れ現象を完璧に再現し、イグ・ノーベル賞*受賞を目指す。



蚊取線香と台座の有限要素分割

* Ig Nobel Prize : ノーベル賞のパロディ版で、無価値・無用の研究業績に授与される。